

10 社会人、留学生、帰国生への配慮

1) 社会人学生、外国人留学生、帰国生徒に対する配慮

(C群: 社会人学生、外国人留学生、帰国生徒に対する教育課程編成上、教育指導上の配慮)

【現状の説明】 本学の社会人学生、外国人留学生、帰国生の在籍者数からいうと、外国人留学生・社会人・帰国生の順になる。まず、外国人留学生については、AO方式による入学試験を経てきているので、意欲や能力は十分にあるものの、日本語に関しては多少の能力差が見られる。そのため、日本語クラスに能力別クラスを設け、日本語能力の修得を優先すべき学生と、ほぼ通常のクラス進行についていける学生とに分けて履修指導を行っている。また、多くの留学生が在籍している学科では、科目によっては留学生用のクラスを設けている。

社会人に関しては、編入学の場合には、予め基礎科目等の単位認定をしておいて、入学の目的である専門課程の履修が容易になるように配慮している。1年次から入学する者に関しては、必修科目であっても学科の履修指導の下、その履修時期などについて弾力的に運用するようにしている。

帰国生については、学科の履修指導の下、適切な履修ができるように配慮している。

(単位: 人、在籍者数)

	2004年度	2005年度	2006年度
留学生	136	173	201
社会人	15	14	11
帰国生	0	1	3

【点検・評価】 留学生に関しては、受け入れ人数も多く、その学修や履修についての配慮がかなり進んでいるために、全体的な問題は少なくなってきており、今では、その学生個人の事情に基づく問題の方が多い段階であるといえる。

社会人に関しては、現時点では人数もそれほど多くはないが、人数が増えた場合の受け入れ体制や問題点などについて、予め検討しておく時期に来ている。例えばある学科では60歳以上の学生の入学が続き、その履修や学修について、その学生の状況に合わせた個別指導が行われた。個別指導の方が適切であるのは確かであるが、個別対応の際の基準や合意がないのが現状である。

【課題・方策】 社会人については、今後学生数が増えることが予想されるにも拘らず、その対応が遅れているというべきであろう。カリキュラムの面に加えて、現状で5時限目が5時以前に開始となるため、仕事を持ちながら履修することは事実上不可能である。また、社会人が、仕事を持ちながら4年間で卒業要件単位を履修するのは難しいので、例えば、1学期の履修上限単位数が少なく在学期間の長い「社会人コース」のようなカリキュラムを用意して、社会人が学びやすい環境を整える必要もあろう。